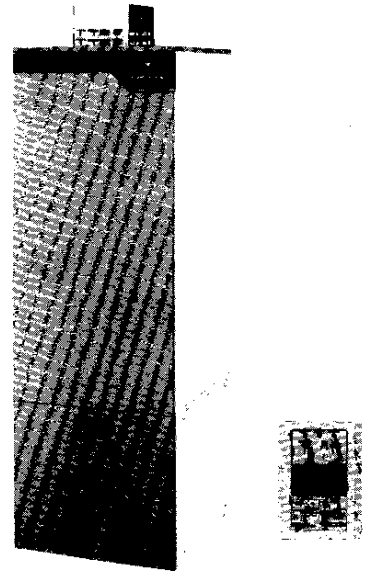
給湯 & 暖房
ガス & シンプルシステム

大阪ガス

エックス 44-670型 〈屋外設置型〉

法定型式
GI7RI型

取扱説明書



このたびは、大阪ガスのガス給湯暖房シンプルシステム〈エックス〉をお求めいただきありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書と別冊の工事説明書をよくお読みのうえ、別添の保証書とともに大切に保管してください。

■特　長

1. この器具は給湯系統と暖房系統を分離した2缶2水方式ですので、給湯と暖房を同時使用しても能力変化がなく安定して使用できます。
2. 耐雨性耐風性を備えた屋外設置型で据置専用タイプです。
3. 操作は遠隔操作盤（メーンコントローラ）と湯出口せんによる全自動方式です。
4. 暖房側は負荷に応じて、ガス量が自動的に3段階にコントロールされる高効率システムです。
5. 電子コントロール方式で出湯温度を感知して自動的にガス量を制御しますので季節により水温が変化しても出湯温度は一定です。
6. 湯温設定はメーンコントローラのつまみをセット（約31～80℃）するだけで、適温適量のお湯が得られます。
（湯温湯量の調節範囲に関する詳しいことは7ページをお読みください）
7. シャワーコントローラ（別売部品）を浴室内に設置すれば、浴室内から湯温設定ができ、より快適なシャワーが楽しめます。
8. 比較的水圧の低い地域でも、低温から高温のお湯が得られます。
9. メーンコントローラは絵文字にし、わかりやすくしました。

目　次

■特に注意していただきたいこと……1
■ガス給湯暖房機シンプルシステム〈エックス〉の概要……3
■各部の名称……4
■ご使用方法……5
■安全装置が作動したときの処置方法……9
■日常の点検・お手入れ……11
■長期間使用しない場合……13
■故障・異常の見分け方と処置方法……14
■仕様……15
■アフターサービス(維持管理について)……17

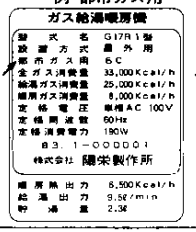
■特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

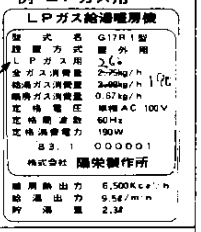
■使用ガスについてのご注意

- ガスの種類を確かめてください。
- ガス器具本体側面にはってある銘板(ラベル)に表示のガスの種類とお宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。
- 器具の銘板に表示してあるガス（ガスグループ）以外のガスでは使用しないでください。
- 転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類が一致していることを、必ず確かめてください。ガスの種類が一致していないときは、お買求めの大阪ガスサービスショップ、または大阪ガスにご連絡ください。
- ガスの種類には都市ガスとＬＰガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。

例 都市ガス用



例 ＬＰガス用



■使用電源についてのご注意

器具の銘板に表示してある電源(電圧・周波数）以外の電源では使用しないでください。

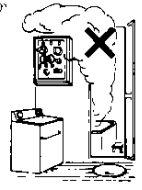
■使用場所についてのご注意

1．屋外専用の器具です。屋内には絶対設置しないでください。排気ガスが充満して危険です。

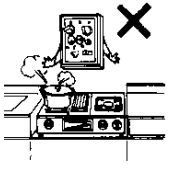
2．特殊薬品（アンモニア・イオウ・塩素・エチレン化合物酸類等）や、その蒸気がかからない所に設置してください。

3．メーンコントローラは

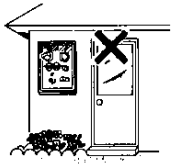
(1)湯気、湿気のないところに設置してください。湿気は器具の寿命を短かくします。



(2)ガスコンロなど燃焼器具に近接する場所への設置をさけてください。



(3)屋外に設置しないでください。

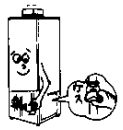


■使用上のご注意

1．ガス洩れ予防

(1)使用中にガスのにおいや、不快なにおいがしていないか時どき確かめてください。

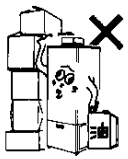
(2)長期間ご使用にならない場合は、ガス元せんを必ず閉めてください。



2．火災予防

(1)器具の上や周囲には燃えやすいものを置かないでください。

(2)給湯スイッチを入にしたまま就寝、外出は絶対にしないでください。



3．火傷についてのご注意

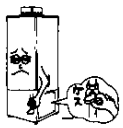
使用中および消火直後は、器具本体が高温になっていますので、手をふれないでください。

4．落雷について

落雷のおそれのあるときは、使用を中止し、電源コンセントを抜いてください。

5．ガス事故防止

(1)ガス洩れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉じ、大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。



(2)万一ガスが洩れたときは絶対に火をつけたり、他の電気器具にふれ（スイッチの入・切や電源プラグの抜き差し等）たりしないでください。

6．凍結についてのご注意

冬期器具内の水が凍るおそれのあるときは、凍結による器具の破損を防止する処置を必ず行なってください。

詳しくは12ページ「冬期の凍結による器具の破損防止について」の項をお読みください。

7．暖房運転ランプが点灯しないとき

暖房スイッチを押しても暖房ランプが点灯しないときは給水バルブを開け給水タンクへ給水してください。

詳しくは5ページ「点火前の準備と確認」の項をお読みください。

8．メーンコントローラの燃焼ランプが点滅したとき

- (給湯側が点滅したとき)
  給湯スイッチを切ってください。
  しばらく（約1分）待ってから再度給湯スイッチを入れてください。
- (暖房側が点滅したとき)
  暖房スイッチを切ってください。
  しばらく(約1分)待ってから再度暖房スイッチを入れてください。
- いずれの場合もガス元せんが開いているのを確認してください。

9．異常時の処置

万一異常燃焼したときや、緊急の場合、あわてずスイッチを切り、ガス元せんを閉じて消火してください。

10．飲料用、調理用としてお使いのとき

器具内に長時間たまっていた水は、飲料用又は調理用に用いないでください。

11．水圧が下がったとき

この器具は0.3kg/cm²以上の水圧が必要です。ご使用中でも水圧が0.3kg/cm²以下にさがると、給湯バーナーは消火しますが故障ではありません。

(給水元せんは全開にしてお使いください。)

12．給湯せんの同時使用について

(1)給湯せんを同時使用しますと、湯量が多く流れすぎて、湯温のコントロールができなくなることがあります。
特に高温のお湯をお使いになっているときは、同時使用はさけてください。

(2)シャワー使用中は、できるだけ同時使用をさけてください。

13．シャワー使用時のご注意

シャワーをお使いになってお湯を止められた直後、再度お使いになるときは、いきなり体や頭にかからず、手で湯温を確認してからお使いください。器具の後沸きにより一瞬熱い湯が出ることがありますのでご注意ください。

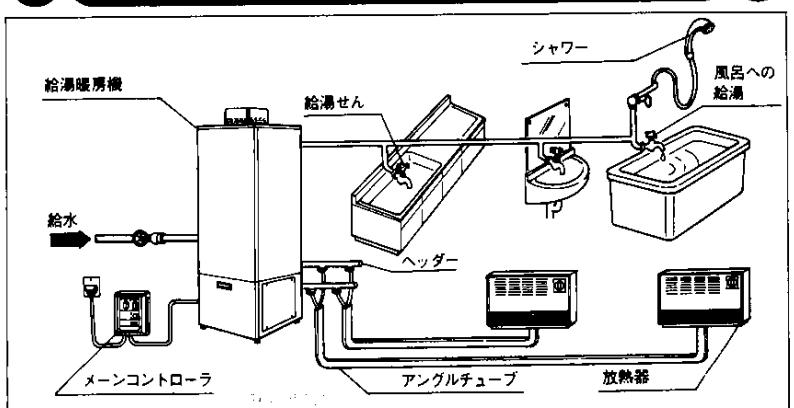
■日常の点検・お手入れ

1．日常の点検、お手入れは必ず行なってください。●詳しくは11ページをお読みください。
2．故障又は、破損したと思われるときは使用しないでください。不完全な修理は危険です。
万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご相談ください。

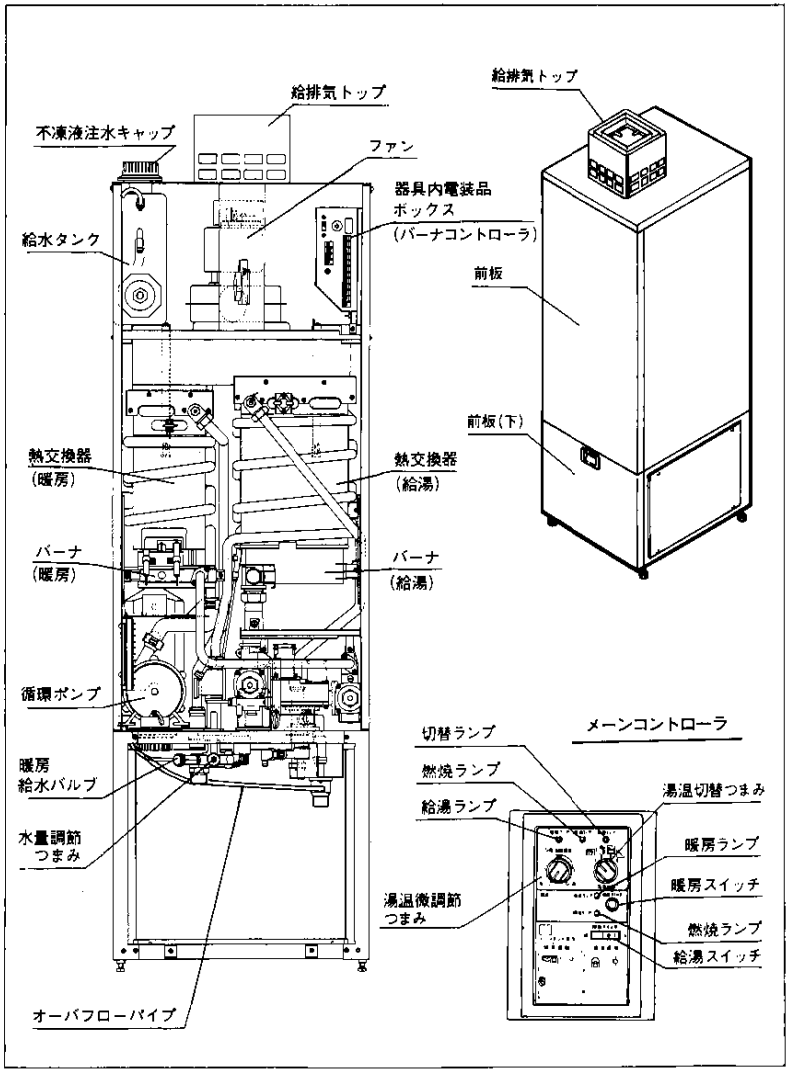
■器具の設置について

1．器具の設置はお近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションに依頼し、安全な位置に正しく設置してご使用ください。
2．正しく設置されているか確認してください。(別冊の「工事説明書」を参考にしてください。)
3．給湯配管は脱酸銅管をご使用ください。熱および水圧が加わりますので鉛管および塩化ビニール管は使用しないでください。
4．排水処理は工事説明書に記載した方法で必ず行なってください。
5．アース配線は、万一電気絶縁が悪くなった場合に起る感電を防止するものですから必ず取付けてください。

ガス給湯暖房機シンプルシステム〈エックス（44-670）〉の概要



■ 各部の名称



■ ご使用方法

■点火前の準備と確認

1．器具の周辺に危険物を置かないでください。

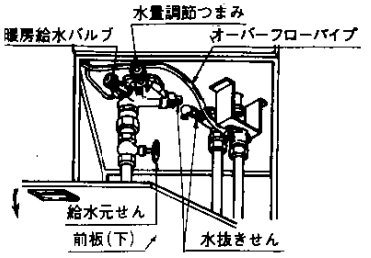
2．給水元せん、給湯せんを開き通水することを確認してください。

(注) 確認後は給湯せんをしめてください。

3．メーンコントローラの電源プラグを電源コンセントに差し込んでください。

4．前板(下)をあけ、左側にある暖房給水バルブを開き(左へ回す)給水タンクへ給水してください。満水になるとオーバーフローパイプから水が出てきますので給水バルブを閉じてください。

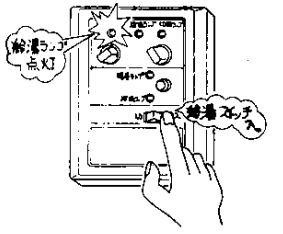
(注) 初めてご使用になるときは、1回の給水ではまだ配管中に空気が残っていますので、暖房スイッチを2回～3回「入」「切」した後、もう一度給水してください。



5．ガス元せんを全開にしてください。

■点　火

給湯



1．給湯スイッチを「入」にし、給湯ランプが点灯することを確認してください。

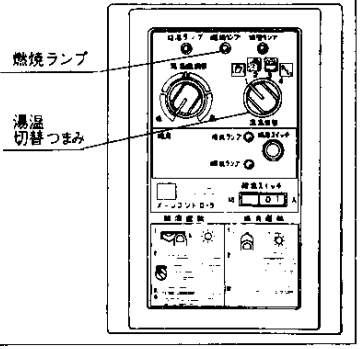
(注) 給湯スイッチを「入」にしても、給湯ランプが点灯しないときは、電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認してください。

2．湯温切替つまみをご希望の所にセットしてください。

3．給湯せんを開けると自動的にバーナーに着火し、燃焼ランプが点灯してお湯が出ます。

4．約10秒待っても着火しなかったときは燃焼ランプが点滅しますので、給湯せんを閉めて給湯スイッチを切ってください。しばらく(約1分)待って、再度給湯スイッチを入れてください。

(注) 長期不在のあとや朝一番など、ガス配管中に空気が残っていて、一回で着火しない場合や、万一途中でバーナーが消えた場合、燃焼ランプが点滅します。
上記と同様の操作をしてください。

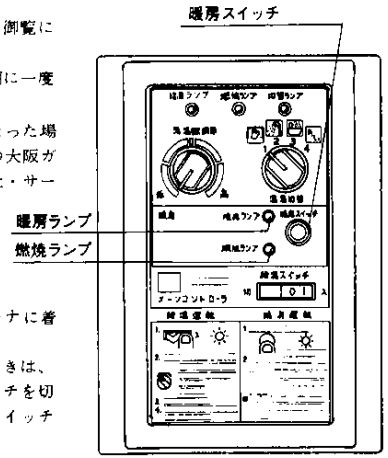


〔ご注意〕

- 使い始めは給湯配管内の冷水を追い出すまでお湯はでません。
- 何回点火操作を行なっても燃焼ランプが点灯しなく給湯せんからお湯が出てこない場合は、ガス元せんの開、電源プラグの差し込み忘れなど確認の上、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

暖房

1．暖房スイッチを押してください。スイッチが赤に変わり暖房ランプが点灯します。点灯しないときは給水タンクの水が不足しています。
5ページの「点火前の準備と確認」の項を御覧になって給水タンクへ給水してください。
(注)給水タンクの水が蒸発しますので約1ヵ月に一度ぐらい給水する必要があります。
(注)水の減りかたが速かったり、急に速くなった場合は水漏れの可能性があります。お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

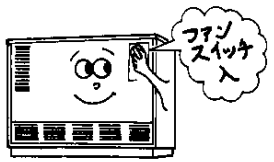


2．暖房ランプが点灯しますと、自動的にバーナに着火し燃焼ランプが点灯します。
約10秒待ってもバーナに着火しなかったときは、燃焼ランプが点滅しますので、暖房スイッチを切り、しばらく（約1分）待って再度暖房スイッチを入れてください。

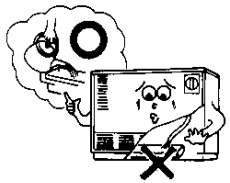
3．室内の放熱器のファンスイッチを入れるとしばらくしてファンが回り暖かい空気が出て室内を暖房します。

〔ご注意〕

- 放熱器のファンスイッチを急に「停止」すると、コトンという音がすることがあります。ファンスイッチはゆっくりと操作してください。



- 暖房水から加湿用の水を放熱器に補給しないでください。加湿水を補給する場合は、ヤカンなどにより注水してください。
（加湿器のある放熱器の場合）



■湯温、湯量調節

1．お使いになる用途に合わせて、湯温切替つまみを絵文字にセットしてください。

絵　文　字	用途(湯温℃)	絵　文　字	用途(湯温℃)
1	洗たく雑用水（約 35）	3	浴槽への給湯（約 48）
2	シャワー（約 42）	4	浴槽へのさし湯（約 76）

(注)　この湯温は湯温微調節つまみ中央のときの目安の温度です。
ガス種転換および季節により多少変化することがあります。

2．湯温切替つまみでセットされた湯温をさらに微調節されるときは、湯温微調節つまみで行なって下さい。
右に回すと……高温に
左に回すと……低温に　なります。
約±4℃の微調節ができます。

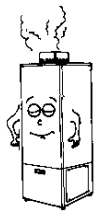
3．ご使用になる湯温にセットされたあとは、給湯せんを開けて湯を出してください。

4．湯量の調節は、水道を使用される要領で給湯せんを絞ってお使いください。
湯量は約2.5ℓ/分以下に絞りますと、メーンバーナの火は消えます。

〔ご注意〕

- 季節による水温の変化、湯温によって湯温コントロールからはずれる範囲があります。夏期、水温が30℃近くなりますと湯温調節つまみを「1」に湯温微調節つまみを「低」にセットしても湯量が少ない場合、湯温が高くなります。このような場合は水量調節つまみを(大)の方向に回し給湯せんを開けて湯量を多く出してください。
また「3」や「4」の位置では、給湯せんを全開で使うと高温が得られない場合があります。このような場合は、水量調節つまみを(小)の方向にいっぱい回し給湯せんを絞ってお使いください。(水量調節つまみを(小)の方向にいっぱい回すと器具からの出湯量は約9ℓ/分に設定しています。（大)の方向にいっぱいまわすと水圧1kgf/㎠で約13ℓ/分に設定しています。水圧が高い場合は絞ってお使いください。)

水量調節つまみ



- 寒い日には排気中の水蒸気が結露して白い湯気が給排気トップからでることがありますが異常ではありません。この器具の効率がよいためですから安心してお使いください。
- 給湯せんで湯量を調節しますと水の中の空気が分離して、気ほうとなり湯が白くなることがありますが、空気ですので何ら心配ありません。

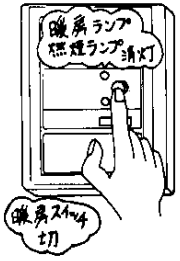
■消　火

給湯

1．給湯せんをしめますと、お湯が止まり、バーナーの炎が消えます。つぎにお使いになるときは、給湯せんを開くだけでバーナーに着火してお湯が出てきます。
7分以上お使いにならないとパイロットバーナが**自動的**に消火しますので、お湯が出るのに少し時間がかかります。

暖房

1．暖房スイッチを押してください。スイッチが黒に変わります。バーナーが消火し燃焼ランプ暖房ランプが消えます。



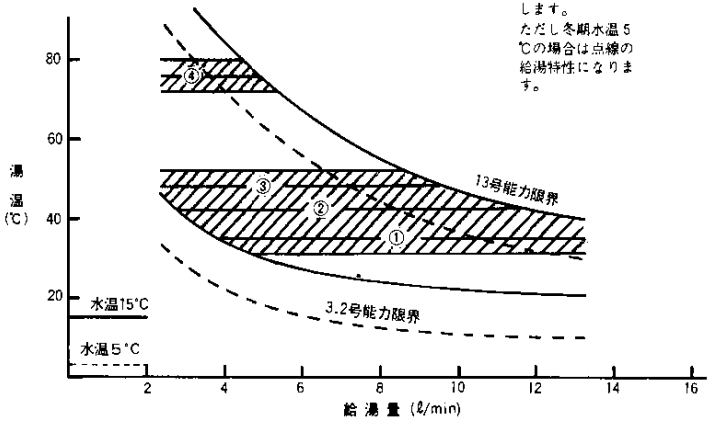
〔ご注意〕
●長期間ご使用にならない場合は、給湯・暖房のスイッチを「切」にし、**ガス元せん**も閉めておいてください。

●暖房シーズンが終わっても（夏場でも）、ポンプの保護のため一ヵ月に一度給水バルブを開け給水タンクに給水してください。

■給湯温度特性（参考）

○の数字は湯温切替つまみの数字です。

このグラフは水温15℃［春秋期］の場合の特性をしめします。
ただし冬期水温5℃の場合は点線の給湯特性になります。

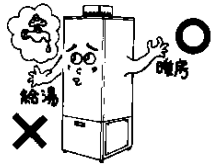


■停電後の使用方法

●停電すると自動的にガスが閉まり、給湯・暖房とも停止します。
●再通電したときは、給湯・暖房とも自動的に復帰し、再燃焼します。
（注）長時間停電するときは、電源プラグを抜いておいてください。

■断水時のご注意

●暖房はそのまま使用できます。
●給湯は使用できません。
●給湯せんをしめてください。



■安全装置が作動したときの処置方法

■処置について

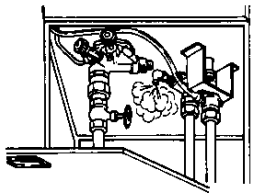
ご使用中に自動的に運転が止まったり、バーナーが消火してしまったときは、次の方法並びに14ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」により処置してください。

■バーナー安全装置

使用中にも拘らず（十分湯量が流れているのに）バーナーの炎が消えたときには、安全装置が働いて自動的にガスが止まりメーンコントローラの燃焼ランプが点滅しますので、バーナーの消火に気づいた時は、すぐスイッチを切ってください。
再使用する時は、しばらく待って（約1分）スイッチを「入」にしてください。
（注）再運転する時、給湯せんをしめてから行なってください。

■ハイリミットスイッチ（熱交換器温度感知）

熱交換器の異常な温度上昇をキャッチしてガスの通路を遮断し、メーンコントローラの燃焼ランプが点滅します。スイッチをいったん切ってしばらく待って（約1分）スイッチを「入」にしても燃焼ランプが点滅する場合は、スイッチを切ってからガス元せんを閉じて、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。



(注) ハイリミットスイッチが作動するときは、熱交換器の中の圧力が異常に高くなり、器具の損傷を防ぐため過圧逃し弁から圧力を逃します。高温の蒸気が器具下部から噴出する場合があります。

■過熱防止温度ヒューズ

ご使用中、器具内の温度が異常に高くなったとき、過熱防止温度ヒューズが溶けガスの通路を遮断し、メーンコントローラの燃焼ランプが点滅します。
スイッチをいったん切ってしばらく待って（約1分）スイッチを「入」にしても燃焼ランプが点滅する場合は、電源プラグを抜いてから、ガス元せんを閉じ、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

■低温作動弁

この器具には、低温作動弁がついています。冬場外気温度が降下したとき、低温作動弁が凍結予防のために作動して器具から水を少量流すようになっています。気温が上昇しますと自動的に止まります。作動中でも器具は使用できます。

■ポンプ過熱防止装置

ご使用中、ポンプが異常に高温になると温度スイッチが作動しポンプが止まります。
しばらくするともう一度ご使用になれますが、このような現象がたびたび起こるようでしたらお近くの大阪ガスサービスショップもしくは、大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

■電気ヒューズ

使用中に、なんらかの原因で過電流が流れて電気ヒューズが切れたときは、メーンコントローラのランプが全て消えガス通路が閉まってメーンバーナー、パイロットバーナーの炎が消え、運転が止まります。

電気ヒューズが切れたときは、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

■給排気ファン回転確認装置

給排気ファンが所定の回転数以上で回らないと、給排気ファン回転確認装置が働いて、点火動作に移りません。このような場合お近くの大阪ガスサービスショップもしくは、大阪ガス支社、サービスステーションにご連絡ください。

■日常の点検・お手入れ

■点検・お手入れの際のご注意

器具を安全・快適にお使いいただくために、日頃の点検・お手入れを習慣づけるようにしてください。

(1) お手入れの前には必ずガス元せんを閉じ、電源コードのプラグを抜いてください。
(2) 安全装置及びガスの通路部分は絶対に分解しないでください。

■点　検

1．器具の点検

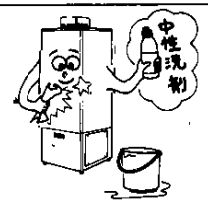
(1) 器具のまわりに燃えやすいものは置かないでください。
(2) 器具の上に、タオルなどを置いて、給排気口をふさがないようにしてください。
(3) バーナーに着火するとき、大きな音がしたり、使用中にゴーゴー音がするときは給湯せんまたはシャワーせんを閉め、暖房をお使いの時は暖房スイッチを切って、しばらく待って再び使用してください。
(4) 湯沸器が古くなると熱交換器やバーナーにサビやスス、ほこり等がつまったりします。
また取り付け場所によりバーナーに「くも」が巣をはることがあります。このような場合不完全燃焼を起すことがあり、ときどきご使用中に異常（異常音、排気に不快な臭い、目にしみる等）がないか確認してください。
異常に気づかれた場合は、使用を中止し、ガス元せんを閉めてお近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

■お手入れ

1．器具外観のお手入れ

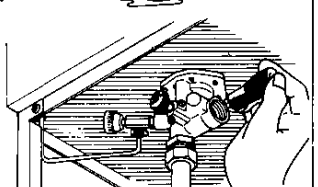
汚れは布または、スポンジに台所用洗剤（中性洗剤）をつけてふきとってください。

(注) 洗剤はのこらないようにふきとってください。
シンナーやベンジンなどでふかないでください。
ラベル等の印刷物はふかないでください。



2．水フィルターの掃除

水フィルターに配管内のゴミ、砂がたまりますとお湯が出にくくなります。その場合は給水元せんを閉め、水フィルター栓を左に回して水フィルターを引き出して掃除してください。



3．シャワーヘッドのお手入れ

シャワーをお使いになるとき、お湯が出にくくなったり、バーナーの炎が消えたりするときは、シャワーヘッドにごみがつまっていることがあります。シャワーの散水キャップを取外して掃除してください。

■冬期の凍結による湯沸器の破損防止について

●冬期は寒冷地だけでなく、暖かい地方でも急激な寒波のために通水部内の水が凍って器具を破損することがありますので、凍結防止のために下記の処置を必ず行なってください。

〔給湯側〕

1．給湯せんからの水を流し放しにする方法(一般的な凍結防止方法)

「この場合は器具本体だけでなく、給水管、バルブ類の凍結も防止できます。」給湯スイッチを切り給湯せんより少量の水〔1分間に牛乳びん1本以上(200cc以上)、ただし寒さにより、流量が異なりますので特に寒い日は多目に〕を流し放しにしておいてください。また、流量が不安定な事がありますので、念のため30分ぐらい後にもう一度流量をご確認ください。水を浴そうに流し込まれますと、一晩で浴そう半分から一ぱい程度になります。翌日雑用水としてご利用ください。

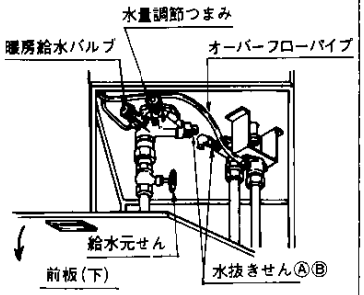
2．器具内の水を抜く方法 (外気温度が－5℃以下になるような場合)

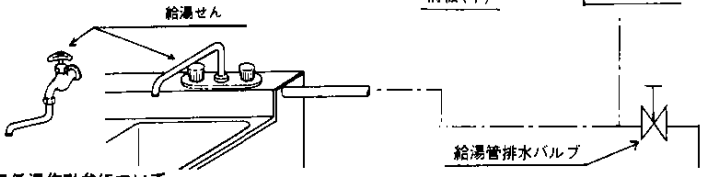
(注) この方法は給水配管部分の凍結防止はできません。
次の手順で器具内の水を抜いてください。

(1)給水元せんを閉める。
(2)すべての給湯せんを開く。
(3)水抜きせんⒶ、Ⓑを左に回してはずす。
(4)暖房給水バルブを開く。
(5)給湯管排水バルブを開く。

(注) 水抜きせんⒶ、Ⓑは次にお使いになるときまで、はずしておいてください。

(注) 再度ご使用されるときは、水抜きせんⒶⒷ給湯管排水バルブと暖房給水バルブを閉め給水せんを開き、給湯せんから水が流れるのを確かめてください。





■低温作動弁について

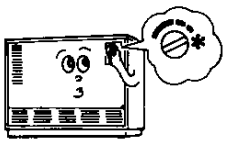
●この器具には、万一上記の凍結防止処置を忘れた場合や、急に冷え込みの時のために、低温作動弁を組込んでいます。外気温度が降下すると自動的に器具外に少量の水を流出し、外気温度が上昇すると自動的に水が止まります。

●これは、凍結予防のためのもので、低温作動弁が働いて、水が流出するような場合は、必ず上記の1.もしくは2.の処置をしてください。低温作動弁だけでは外気温度が－5℃以下になるような場合は効果がありません。

(注) 器具の中の水を抜く場合以外は、絶対に給水元せんを閉めないでください。低温作動弁が作動しても水が流れなくなります。
断水時は低温作動弁が作動しても水が流れないので凍結予防はできません。

〔暖房側〕

1．暖房スイッチを切りにしてください。
2．各部屋のすべての放熱器の操作つまみを「※」にしてください。
3．このシステムには、凍結防止のため不凍液がはいっています。暖房水補給のため不凍液の濃度が低下しますので1年に1回不凍液の濃度チェックが必要です。暖房シーズン前にお近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションへご用命ください。(有償)



・詳細については放熱器の取扱い説明書に従ってください。

(注)電源プラグは抜かないでください。
気温が低いときは、自動的にポンプがまわり凍結を防止します。

■凍結したとき

1）凍結した場合は、ガス元せん、給水元せんを閉めてください。凍結したまま使われますと、器具に異常が生じる場合があります。
2）凍結が解けた後、水もれがないのをご確認の上ご使用ください。
3）器具や配管が破損しますと、高額の修理費用がかかる場合があります。(有償)

■長期間使用しない場合

長期間ご使用にならない場合や、長期不在又は転宅の場合はガス元せんを閉じ、メーンコントローラの電源プラグを抜くと共に下記の処置を必ず行なってください。

〈給湯側〉
前ページの2に従って水抜きを行なってください。

〈暖房側〉
お買い求めの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションへ、ご連絡ください。

■ 故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中に、ふだんと違った状態になったときや不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、直ちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

■故障、異常の見分け方と処置について（○＝主原因　△＝原因）

現象 ＼ 原因		給湯：寒い日に給排気トップから湯気が出る。	給湯：給湯せんを開いても湯がでない。	給湯：使用中に水になる。	給湯：高温の湯が出ない。	給湯：低温の湯が出ない。	給湯：使用中湯温が極端に変動する。	給湯：お湯を止めても燃焼ランプが消えない。	給湯：動作が水動しないなどが凍る日に低温作動弁	暖房：ランプが点灯しない。暖房スイッチを押しても暖房が停止しない。外気温が低くないのに低温作動弁	暖房：暖房燃焼ランプがつかない。	暖房：暖房が快適でない。	処置方法	お客さま	大阪ガス㈱・サービスステーション 大阪ガスサービスショップもしくは
電源プラグをコンセントに差し込んでいない			○							○			プラグをコンセントに差し込む	○	
ガス元せんの開き不十分			△	△	○		△				△	△	器具せんを一たん閉じてからガス元せんを全開にする	○	
給湯せん又は水量調節つまみの開きすぎ				△	○		△						給湯せん又は湯量調節つまみを絞る。同時使用をやめる	○	
ガス配管内に空気が残っている			△	△							△		点火操作を繰り返す	○	
ガス圧が	低い		△	△	△		△				△	△	他の器具も同様の場合は点検依頼する（他に原因がないとき）		♥
適切でない	高い			△											♥
給水元せんの開き不十分			○	△		○	△						給湯せんを一たん閉じてから給水せんを全開にする。	○	
水圧が	低い		○	△		○	△						点検又は点検依頼する。（他に原因がないとき）		♥
適切でない	高い						△								
水フィルターのつまり			△	△		△	△						つまり除去又は点検を依頼する。	○	
断水している			○										給湯使用を一たん中止する。	○	
凍結している			○										解凍するまで使用を中止する。	○	
バーナー炎口づまり 空気口づまり			△	△	△						△	△	点検を依頼する		♥
熱交換器の目づまり				△	△							△	点検を依頼する		♥
湯温調節が適切でない					○	○	○						「使用方法(湯温・湯量調節)」参照	○	
給湯せんの開き不足			△	△		○	△						給湯せんを全開にする	○	
ノズルづまり			△								△	△	点検を依頼する（他に原因がないとき）		♥
安全装置が作動			○	○								○	点検を依頼する（度々作動する場合）		♥
水ガバナー、水流スイッチの故障			△	△	△	△	○	○					点検・修理・部品交換を依頼する（他に原因がないとき）		♥
電気部品の故障			○		△	△		○			○	○	点検を依頼する		♥
ポンプが回転しない												○	点検を依頼する		♥
給水タンクの水不足									•		○		暖房給水バルブで水を補給する	○	
給排気ファンが回転しない			○									○	点検を依頼する		♥
低温作動弁の故障									○	○			点検を依頼する		♥

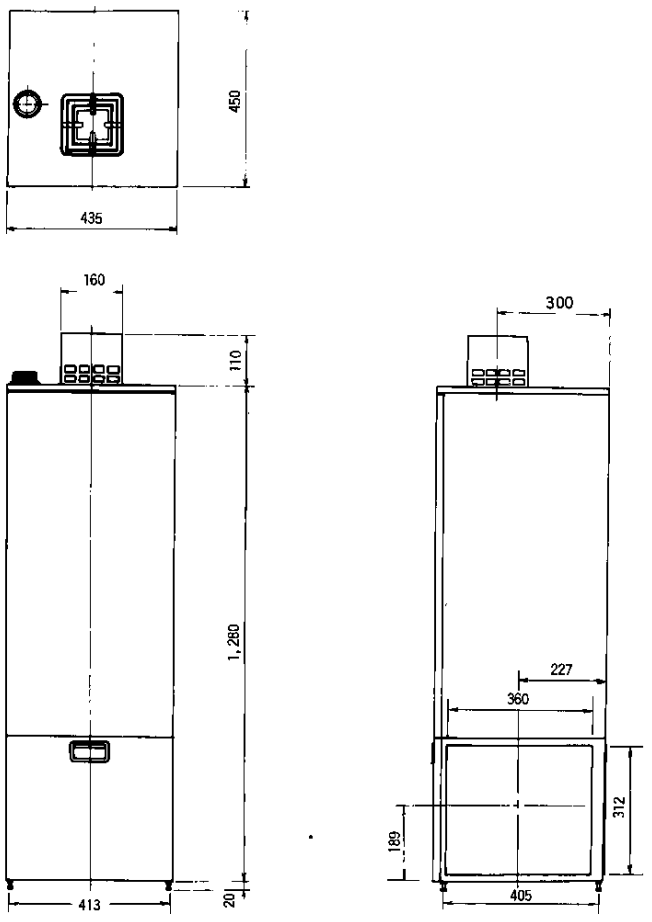
■ 仕　様

器種名		ガス給湯暖房機
形式の呼び		44－670
種類	給(出)湯方式	先止め式
	暖房	温水循環式
	給排気方式	屋外強制排気方式
点火方式		連続スパーク点火式・ダイレクト着火
最低作動流量(ℓ/min)	給湯	2.3
	暖房	0（締切り使用可能）
給湯圧力損失(mH_2O)		3.6(7ℓ/minのとき)
温度制御方式	給湯	電子コントロールによるインプット比例制御方式
	暖房	電子コントロールによるインプット3段切替方式
暖房機外揚程(mH_2O)		6.0(5ℓ/minのとき)
暖房水温度(℃)		82
外形寸法(mm)		高さ1410×幅435×奥行450
重量(kg)		48（運転時約53）
接続	給水	20A (3/4B)
	給湯	20A (3/4B)
	暖房往き・戻り	20A (3/4B)
	ガス	20A (3/4B)
電気	電源	AC 100V　60Hz
	消費電力(W)	最大 190 (60Hz)
安全装置		●バーナ安全装置　●過熱防止温度ヒューズ　●水流スイッチ ●ハイリミットスイッチ　●給排気ファン回転確認装置 ●水位スイッチ　●過圧逃し弁　●低温作動弁　●風量スイッチ
付属品		給排気トップ・メーンコントローラ・転倒防止金具
別売部品		シャワーコントローラ

使用ガスグループ		1時間当りのガス消費量 (Kcaℓ/h) 給湯	暖房	同時	出湯能力 (ℓ/min) 上昇温度 25℃	40℃	暖房熱出力 (Kcaℓ/h)
都市ガス用	6 C	25,000	8,000	33,000	13.0	8.1	6,500
	6 A	25,000	8,000	33,000	13.0	8.1	
	13 A	25,000	8,000	33,000	13.0	8.1	
LPガス用 (kg/h)		~~2.98~~ 2.75	0.67	~~2.75~~ 2.63	~~13.0~~ 12.4	~~8.1~~ 7.7	

備考　●出湯能力は給水圧力1kg/cm²のとき。
●ガスはJISに規定する標準ガス、標準圧力のとき。

器具寸法図（単位mm）



■ アフターサービス（維持管理について）

- 14ページの「**故障・異常の見分け方と処置方法**」に示すような故障の症状があった場合、この取扱説明書をよくお読みのうえ、再度点検をしていただき、なお異常のあるときは保証書をお示しのうえ、お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにお申し出ください。
- ご不審な点や故障のおきたとき、また部品については、お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにお申し出ください。
- ご連絡いただくときは、器具の左側面に貼付してあるコード番号も合わせてお知らせください。

〔例〕

(4) 44　670 U	(N) 44 - 670 U
大阪ガス株式会社	大阪ガス株式会社

別添の保証書は大切に保存してください。

■転居される場合

ガスには15の種類があります。**ご転居**などによりガスの種類が変ったときには、お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社、サービスステーションにご相談ください。
この場合の改造に要する費用は、保証期間内でありましても有償です。
器具銘板に表示してある電源（電圧、周波数）以外の電源では使用できません。確認してください。

■ 増改築される場合

器具を取付けた後で増改築などにより、器具の設置環境が変化する場合は、お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご相談ください。

■定期点検のすすめ（有料）

毎日お使いいただいているガス器具も、安心して末永くお使いいただくためには、定期的な点検とお手入れが必要です。
一般家庭用では２～３年に一度、業務用など長時間ご使用になる場合は１年に一度程度、専門家による分解手入れをお申し込みください。
お申し込み先……大阪ガスサービスショップ、大阪ガス支社・サービスステーション

◎上手に、長く、美しくお使いいただくためには、お手入れが大切です。習慣づけるようにしましょう。

◎この製品を設置する場合は、設置基準に従って設置してください。

■おねがい

ガスくさいときは、**ガス元せんを閉め**、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

当社支社の所在地・電話番号は裏面に掲載しております。